

うえだの輪

の話の

つないでいく地域のこれから

その 3

診療所だより

第四四五号（6月号）

発行 (医) 宏友会
上田診療所
酒田市上野曽根
字上中割73番地
TEL.0234-27-3306
責任者 矢島恭一



地域の話の輪をつなげていくシリーズの三回目は、上田地区の地域計画を紹介します。

まちづくり推進課がコミュニティ振興会に対して呼びかけ、各地区が地域の未来を見据えて地域計画に取り組んでいます。これまでに紹介した地区は計画策定の最中もしくは策定のまとめへと移行しているところでしたが、上田地区ではすでに策定を終え、実行期に入っています。今回は、その取り組みに関わってきた酒田市総務部総務課の池田則雄総務係長にお話を伺いました。

上田・実行期！
継続を大切に

数々の検討の結果行われた一つが、コミセン文化祭に合わせて開催された『かかし祭り』です。かかしが立っている姿は地域に必ずあった風物詩で、上田に復活させることで名物風景としたいという思いがありました。祭りでは毎年多くの方から力作が送られ、展示コーナーを賑わせています。

『上田を超える上田を創る』を目標に掲げ、令和二年度より行われたワークショップ『超上田会議』では毎回五十人程の住民が集まり、地域の課題やこれから伸ばしたい資源についての話し合いが開かれました。

『かかし祭り』の開催



『超上田会議』の様子

その他、新たな企画だけではなく、文化祭の内容も工夫を凝らしています。縁日コーナーに射的を用意すると子どもたちに大好評で、いつまでも遊んでいたいと帰りがたらない姿が見えました。三世代で遊びに来てくれたことに、文化祭の盛り上がりを感じたと話してくださいました。

上田地区では今後も地域計画を推進していくため、新たな部会の設置を計画しています。大きなことを成し遂げるばかりではなく、地域で行える範囲のことを持続していくことに重点を置き、何ができるかを検討していきたいと考えます。現在は、住民から求める声が多いミニ産直が実現できるように話し合いを重ねていきます。



上田の名物へ！『かかし祭り』

シリーズ「ふるさと」

その194 おしっこタイム

何年か前、東京から電車での帰り、車内の「トイレ使用中」の赤いランプが時々点灯した。何気なく見ていたが、点灯している時間が誰かがほぼ同じようだと感じた。腕時計で計ってみると、下着などの関係で個人差もあるようだが、酒田駅に到達するまでの平均時間は約21秒であった。



本屋で「男も女も、ヒトもイヌもウシもゾウも、ほぼ全ての哺乳類がおしっこをする時間は21秒以内だ」という変な本（「へんな科学」五十嵐杏南著）に出会った。「おしっこ」の研究はパトリシア・ヤン博士（アメリカ）などが行ったもので、動物の記録映画撮影中に「おしっこにか

る時間はどの動物も同じだ」と気付いたそう。研究のため動物園や公園などで、ヤギやネズミなどのおしっこをする様子を徹底して撮影したようだ。その結果、性別や体重に関わらず、どの動物も21秒であるとかかったのだそう。ゾウは18リットルの尿を直径10センチの尿道から威勢よく放出する。イヌやヤギなどの中型動物の尿は少ないが、尿管が細いためゾウと同じ時間がかかるらしい。どの動物も同じ21秒なのは、天敵に襲われないギリギリの時間のようだ。紳士淑女も動物の習性をそのまま受け継いでいるのが面白い。（庄内 平也）

受動喫煙をなくそう！

イエローグリーンキャンペーン開催！

5/31（土）
～ 6/6（金）

県内各地でライトアップ！

6月6日（金曜日）まで
日和山公園の灯台がイエロー
グリーンにライトアップされます



診療所でも…？

イエローグリーン
キャンペーンを
推進しています！



ホットニュース

広げよう！活動の輪

糖尿病患者さん向けの
注射の勉強会



満開の
ライラック



令和6年12月2日より
従来の保険証の新規発行が行われ
なくなりました。



マイナ保険証での資格確認に
ご協力をお願いいたします！

締め切り日

矢島 恭一

毎月中旬に翌月号の『NHKラジオ深夜便』という小冊子が届きます。もちろん定期購読を申し込んでいるからです。

その中で毎月楽しみにしているのが、深夜便アンカーのエッセイです。

最新号に柔らかな語り口が好きな私のいち推し、村上里和アンカーが書かれた「焦りの丘」という題のエッセイを見つけました。

今、私は「焦りの丘」に立っている。締め切り日なのにエッセイが完成していないのだ。こんなときにもいつも思い出すのが、画家の安野光雅さん。以前インタビューで「人生のいちしるべは二宮金次郎」とし、「彼は絶対に約束を守り、できない約束はしなかった人。私も締め切りの約束は必ず守ってきた」と話された。

やや長い引用文になってしまいましたが、私も約束日ギリギリにならないと物事を始めない人で、毎度毎度「焦りの丘」に立っています。

この「診療所だより」の文も然りです。

以前にも書いた記憶があるので、書くこうと思う題が最初に決まります。毎月書いてきた拙文の題については、自慢するわけでは

ないのですが、ネタは不思議と湧いて来るのです。

ただ一旦題を決めてから、内容をどうするかについても時間がかかってしまうのです。最近、ほとんど挿絵を描いてくれる人に「こんなイメージで」と伝えておき、直前に絵と文を合体させることになっています。ですからいつも絵が先にできて、最後に文章が完成という段取りです。ただし字数については、きちんと守ります。



だいぶ前のことになりましたが、もとNHKアナウンサーだった鈴木健二さんが書いておられた文章が頭に残っているのです。

鈴木さんの活躍された頃は、原稿を原稿用紙に書く時代でした。鈴木さんは、最後のマス目に「。」が来るように書ける自信があったそうです。秒単位で放送枠が決まっていた職場で働いてきたので、当然身についた技のなせるところかもしれませんが、退職後も依頼原稿すべてこのように書いたそうです。そのところ

は、私も見習っています。

さて締め切りギリギリにしかできないという私の癖は、今始まったことではありません。学生時代の試験勉強は、直前までエンジンがかからなかったし、講演や講義の原稿も当日完成というのが普通です。これが当たり前になってくると、人生すべてが完璧を目指さない人間になってしまった気がします。

同僚の医師仲間には、1ヶ月前には原稿を作り、発表までに3回は練習をするという人がいます。どこが違ってくるかと分析すると、自分はいつも「80%の完成度でよし」としてきたように感じます。

それでも生きてこられたのですが、完璧を目指す人とはどこが違うのです。点数で順列が決まる入学試験、国家試験、様々な資格試験などでもギリギリ合格か大学入学も一浪という結果でした。

完璧な人間より多少ゆるい人間の方がいいと慰めてくれる周りの人が多いのですが、自戒を込めていうと、結局のところ努力が足りないのではないのでしょうか。でも今から人生をやり直すことはできないので、これからも80%の完成度を目指すことになるでしょう。

そしてやがて臨終を迎えるときがくれば、「いい人生だった」ということになるのでしょう。

と言いつつながら今月号も「焦りの丘」に立ち、字数千六百字の原稿を書き上げました。

子どもたちの

笑顔

本楯保育園



▶ 時間があると癒しを見つけに出掛けています。

▶ 余興仲間と4月から縁あって机を並べています。
賑やかなチームです！

vestagram



介護支援専門員
小野寺 亜紀



次の俳句の季語はどれでしょう。また、その季語の季節はいつでしょう。

脳トレ



アタマの体操

古池や

蛙飛び込む

水の音

答えは
来月号です♪



今月の

絵
手
紙

アカマジオウ



富山市在住の土田芳男さん（百歳）より届いた絵手紙をご紹介します。

5月号の答え

- ① きさらぎ（2月）
- ② しもつき（11月）

ほほえみ

がえし



待合室で週刊誌の料理コーナーを見てメモをとっているHさん。今夜のおかずにするのかな。家族みんなでおいしく食べる姿を想像して微笑ましく思いながら見ていました。（恵）

お知らせ

学会参加のため、6月20日（金）の診療は午前10時30分まで、翌21日（土）は休診となります。

ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

発熱・風邪症状（のどの痛み・鼻水・咳等）がある方は受診する前に必ずお電話でご相談ください。

編集後記

『かかし祭り』では上田診療所も特製かかし『ニコちゃん』を展示させていただいています。そのお祭りが地域計画の一環であることに驚きました。文化祭盛り上がりの一助となったのであれば幸いです。（平井）